

人の問いと 神の答え

キリストの救いについて

ウィリアム・マクドナルド著



伝道出版社

**God's Answers
To Man's Questions**
The Way of Salvation Made Plain

by
William MacDonald

Publisher
Evangelical Publisher
Tokyo, Japan

たとえ、あなたがクリスチャンではなく、クリスチャンになる方法をご存じないとしても、そのことに関心を持ち、真摯に耳を傾けようと思っておられるならば、これから記すことに興味を持たれることでしょう。

この本には、聖書のメッセージが一連の「問いと答え」という形で記されています。あなたがお尋ねになりそうな質問と、それに対する回答が、聖書に基づいて記されています。

では、何から始めましょうか。まず、「罪」というテーマから考えていきましょう。罪こそ福音の必要性を生じさせたテーマだからです。

罪について



◆罪とは何ですか？

罪は「不法」を意味します。すなわち、神や他の人のことはお構いなしに、心のおもむくままに振る舞うことです。罪とは「的をはずす」ことであり、考えやことばや行いにおいて神の完全な基準に達しないことです。また、正しいとわかっていながら、それを行わないことも罪です（ローマ3：23、ヤコブ4：17、1ヨハネ3：4）。

◆最初の「罪」はどこで発生しましたか？

最初の罪は天で発生しました。ルシファーという御使いのかしらが神の座に着くことを欲したのです。彼は天から追放され、サ

タン（悪魔）として知られるようになりました（イザヤ14：12-15）。

◆罪はどのようにして、この世界に入ってきたのですか？

罪は最初の人アダムをとおしてこの世界に入りました。彼は神に背き、エデンの園で、食べるのを禁じられていた木の実を食べました。その不従順によって、罪がこの世界に入ったのです（創世記3：1-13）。

◆どうして神はそれをお許しになったのですか？

神は人間を「善悪を判断したうえで、自分の行為を自由に選べる存在」としてお造りになりました。神の願いは、人間がみずから進んで神を愛し、神を礼拝し、悪を憎み、善を行うことでした。ですから、人間は必然的に、善を選ぶ力だけでなく、悪を選ぶ力も備えていたのです（創世記2：15-17）。

◆もし、罪を犯さなければ、アダムはどうなっていたのですか？

エデンの園でいつまでも人生を楽しんだことでしょう（創世記2：17）。

◆罪を犯したとき、アダムに何が起こったのですか？

- (1) 神に対して霊的に死んだ者となりました。
- (2) 病気や死といった肉体的な弱さを持つようになりました。

- (3) 純真な心を失い、不正な者、汚れた者、罪ある者、失われた者、敵対する者、神から遠く離れた者となってしまいました（創世記3：7、エペソ2：1-3）。
- (4) 罪を持ったまま死ぬと、永遠のさばきを受けることになりました。

◆アダムの子孫にも影響しましたか？

アダムの子孫にも影響がありました。彼の罪の性質は、彼の子孫全員に引き継がれました。「ちょうどひとりの人によって罪が世界にはいり、罪によって死がはいり、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです」（ローマ5：12。13-19も参照してください）。

◆アダムの子孫のため、私たちもみな、「罪人」としてこの世に生まれて来たのだとおっしゃるのですか？

そのとおりです。アダムがもうけた子どもたちは、みな彼の性質を受け継ぎました（それは罪深い性質でした）。ですから私たちの子どもも、善悪について教えられる前から悪を行う方法を知っているのです（詩篇51：5）。

この原理をととえによって説明しましょう。料理に使う金属製の「流し箱」をご存じでしょう。ゼラチンを使ってゼリーを作るときのことを思い浮かべてください。もし、そのゼリーの型を落としてへこませてしまったら、それ以後、その型を使って作るゼリーはすべて「くぼみ」のあるものになってしまいます。

◆それは不公平な話のように思えてなりませんか？

アダムは人類の代表でした。私たちにも善悪を判断する自由意志が与えられているのですから、結局はアダムと同じことをしてしまうのではないのでしょうか。

◆どのような人にも「善いところ」があると私は思いますか？

神の観点と人の観点は違います。神は人の内に善を見いだすことがおできになりません。人間はみな神の基準に達していないのです。「足の裏から頭まで、健全なところがない」のです（イザヤ1：6）。

◆そのイザヤ書のことばはどういう意味ですか？

それは、罪が人間のあらゆる部分に影響を与えた、という意味です。人はどのような恐ろしい罪でも犯してしまう可能性があります（エレミヤ17：9、ローマ3：10-18、7：18）。人は（救われるまでは）神を喜ばせることができない、という意味でもあります（ローマ8：8）。

◆私は殺人や姦淫^{かんいん}といったひどい罪を犯したことは一度もありません。それなのに罪人とみなされてしまうのですか？

神は、あなたの行為だけでなく、あなたの心もご覧になります。人間の心は外側に現れた「行い」以上に邪悪なものです。よこしまな思い、他人を憎む心、みだらな欲望をいだいて異性を見るこ

となども、神の目にはひどい罪なのです（マタイ5：27、28、マルコ7：21-23、ローマ8：7、8）。そのような罪もあなたを神から引き離します（イザヤ59：1、2）。

◆でも、私よりもひどい「罪人」が何人もいるのではないのでしょうか？

確かにそうでしょう。しかし、自分を他人と比べるようなことをなさってはいけません。他人と比べることは賢明なことではありません。私たちは他のだれかより善いとか悪いとかいった基準でさばかれるのではなく、神の「きよさ」と「完全さ」という光に照らし合わせてさばかれるのですから（ローマ2：1-3、IIコリント10：12）。

◆罪人は全員、同じ刑罰を受けるのですか？

いいえ。罪人が受ける刑罰には等級があります。罪を持ったまま死んだ人々は「ゲヘナ」と呼ばれる地獄で永遠の刑罰を受けるのですが、地上で生きていた間、悔い改める機会がどれくらい与えられていたかとか、どのような罪を犯したかによって刑罰に違いが生じるようです（マタイ11：20-24）。

◆聖書のお話を一度も耳にすることなく死んでいった人々はどうなるのですか？

神はご自分を全人類に明らかにしてこられました。聖書によってだけでなく、人間にお与えになった「良心」によっても、また、私たちの周囲に存在する「被造物」によっても。もし、聖書のお話を聞いたことがなくても、真理を求め、神の存在を信じ、良心に

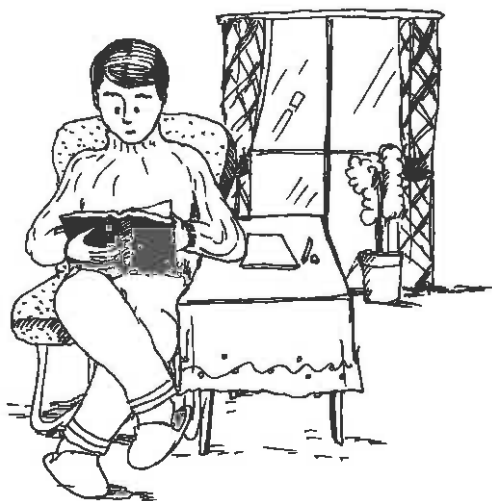
従って行動するなら、神はそのような人にさらなる真理をお示しになり、その人をお救いくださるでしょう。しかし、人々はまことの神に関する知識を拒み続けてきました。そして、木や石で出来た偶像を拜んできたのです。ですから、彼らには弁解の余地がありません（ローマ1：20）。キリストなしではあなたのたましいも永遠に苦しむこととなります。ですから、私たちクリスチャンはあなたにも福音を伝えているのです。

◆私は本当に罪人なのですか？

まず、次の8つの質問に「はい」か「いいえ」で答えてみてください。

- (1) あなたは、あなたをお造りになり、あなたを生かしておられる神を心から愛していますか。
- (2) あなたは、自分自身を愛するように周囲の人たちを愛していますか。
- (3) あなたは、自分の心の中の不純な思いが周囲の人たち全員に知れたとしても、平気であることができますか。
- (4) あなたはどのような誘惑にも打ち勝つことができますか。
- (5) あなたは、「だれも見えていないから」という理由で、悪いとわかっていることをするようなことが、今までにありませんでしたか。
- (6) あなたは、家の中にいるときの自分も、家の外にいるときの自分も潔白だと言い切ることができますか。
- (7) あなたは、「これは善いことだから私はこれを実行すべきだ」と思ったことを、常に実行してきましたか。
- (8) あなたは「うそをついたことは一度もない」と言い切ることができますか。

1つでも「いいえ」があれば、あなたはまことの神の御前に罪人です。もし、キリストを信じなければ、あなたのたましいは永遠に失われます。あなたには、たましいの救いが必要なのです。



救いの必要性



◆神は罪に対してどのような態度をおとりになるのですか？

神は完全にきよいお方ですから、罪を是認したり、大目に見たりすることはおできになりません。また、神は完全に公正なお方ですから、すべての罪をおさばきになります。「罪から来る報酬は死です」（ローマ6：23）と神は告げておられます。

◆神は罪人に対してはどのような態度をおとりになるのですか？

人間をお造りになったのは神です。ですから神は人間を愛しておられます。神は、罪は憎まれますが、罪人は愛しておられるのです（ローマ5：8）。

◆神は罪人に何を願っておられるのですか？

神は、すべての人が救われることを願っておられます。神は、あなたが滅びることを望んでおられません（IIペテロ3：9）。

◆罪がこの世界に入った結果、どのような問題が生じましたか？

不敬虔な罪人たちをどのようにしたら救うことができるか、と

いう問題が生じました。しかも、神は、ご自分の義なる性質を完全に保ちつつ、そうなさる必要があったのです（ローマ3：26）。

◆どうして、そのようなことが問題だったのですか？

愛なる神は罪人が救われることを望んでおられます（エゼキエル33：11）。しかし、神はきよいお方ですから、人間が罪を持ったまま天国に入ることを許すことがおできになりません（1コリント6：9、10）。事実、罪人はみな（罪を犯したので）死ななければならないと、公正な神は告げておられます（ヘブル9：27）。そこで問題が生じました。すなわち、神のきよさと神の正しさを完全に保ちつつ、同時に神の愛を完全に表すにはどうすればよいかという問題です。

◆神が何もなさらなかったとしたら、私たちはどうなっていたのでしょうか？

私たちは全員、ゲヘナと呼ばれる地獄で永遠に苦しまなければならないことでした。

◆「神は愛」なのですから、人を地獄に送るようなことはなさらないのではありませんか？

確かに神は愛なるお方ですが、同時に、きよく正しいお方でもあります。神がご自分のご性質を放棄なさることはあり得ません。神が「聖」と「義」を犠牲にしてまで「愛」を優先なさることはあり得ないのです。

◆**それでは、神が（罪人の救いのために）何もなさないということも、あり得たのですか？**

そのとおりです。その場合、私たちは全員、自分がしたこと
の当然の報いを受けることになったでしょう。しかし、神は愛ゆえ
に行動を起こさずにはおられなかったのです。

◆**どのようにして神はその問題を解決なさったのですか？**

神は私たち罪人の「身代わり」をお探しになったのです。

◆**その「身代わり」には何が求められますか？**

まず最初に、その身代わりは「人間」でなければなりません。
そうでなければ、正当な身代わりとはみなされません。

次に、その身代わりは「罪のない人間」でなければなりません。
もし罪を持った人間であるなら、彼はまず自分自身の罪のために
死ななければならぬからです。

第3に、その身代わりは「神」でなければなりません。神が身
代わりとなってくだされば、数え切れないほどの人間の数え切れ
ないほどの罪を完全にぬぐい去ることができるに違いないから
です。

最後に、その身代わりはみずから進んで死ななければなりません。
無実の人間を無理やり身代わりにするといった不公平なことを
すれば、サタンが黙っていないでしょう。

◆そのような「身代わり」を見いだすことはできたのですか？

はい。神は見いだされました。これらの要求をすべて完全に満たされたお方、すなわち、人となられた神のひとり子、主イエス・キリストです（イザヤ53：4、5）。



キリストのみわざ



◆イエスは本当に「人」でしたか？

はい。彼はユダヤ（現在のイスラエル）のベツレヘムという町にあった宿屋の馬小屋で生まれ、ナザレという町で育ちました。そして、エルサレムでその生涯を終えました。

◆イエスに罪はなかったのですか？

そのとおりです。彼は処女マリヤから生まれたので、アダムの子孫の罪を引き継がなかったのです。彼は罪を知らないお方でした。彼は1点の罪も犯されませんでした。彼のうちに罪はなかったのです（IIコリント5：21、Iペテロ2：22、Iヨハネ3：5）。

◆イエスは神なのですか？

そうです。イエスは「人」であり、同時に「神」でもあるのです（ヨハネ1：1、10：30、コロサイ2：9、ヘブル1：8）。

◆イエスはみずから進んで死なれたのですか？

そうです。イエスは父なる神のみこころに喜んで従うとおっしゃいました。たとえ、それが罪人の身代わりとなって死ぬことであつたとしても（詩篇40：7、ヨハネ10：17、18）。

◆イエスが罪のない生涯を送られたのですから、私たちはすでに救われているのではありませんか？

いいえ、違います。それだけで私たちの罪がぬぐい去られるわけではありません（ヨハネ12：24）。

◆なぜ、イエスは死ななければならなかったのですか？

私たちの罪は永遠の死に値します。私たちは、永遠に地獄で苦しむという刑罰を受けなければならないのです。しかし、イエスはその刑罰を十字架の上で私たちの代わりに受けてくださったのです（1ペテロ2：24）。

◆身代わりとなる者の死には何か特別な条件がありましたか？

はい。その者の血が流されなければなりません（1ペテロ1：19）。

◆なぜ、そのようなことが必要だったのですか？

血を流すことがなければ、罪の赦しはないのです。神がそう語っておられるのです（ヘブル9：22）。

◆なぜ血が重要なのですか？

血は「肉体のいのち」です。したがって、キリストの血が流されたということは、キリストが私たち罪人の身代わりとして、ご自分のいのちをおささげになったことを示しています（レビ

17：11)。

◆十字架の上でいったい何が起こったのですか？

3時間におよぶ暗やみの中で、神は私たちの罪をすべて主イエスの上に置られました。イエスは私たちの身代わりとなって死なれたのです（ルカ23：44）。

◆イエスはその終わりに何と叫ばれましたか？

「完了した」と叫ばれました（ヨハネ19：30）。

◆それはどういう意味ですか？

^{あがた}贖いのみわがが完了したという意味です。罪人が救われるために必要なものがすべて備えられたのです（ヘブル10：14）。

◆イエスは死後、どうなりましたか？

彼の遺体は墓に葬られました。ところが、彼は、3日目に死者の中からよみがえったのです（ルカ24：1-7、ヨハネ19：42）。

◆なぜ、そのようなことが起こったのですか？

神が、イエスを死からよみがえらせることによって、そのみわがに完全に満足なさったことをお示しになったのです（ローマ4：25）。

◆イエスは文字どおり「からだ」をもって復活されたのですか？

そうです。そのからだは「肉」も「骨」もある本物のからだでした（ルカ24：39）。

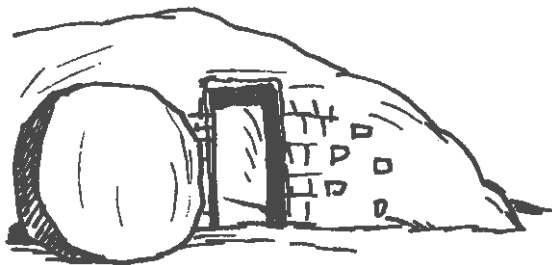
◆もし、イエスの復活がなかったとしたら、私たちは救われないのですか？

はい。復活は、私たちが救われるために絶対に必要なものです（Iコリント15：14-19）。

◆復活の後、何が起こりましたか？

救い主イエスは、復活されてから40日後に天に帰って行かれました。そして、父なる神から栄光と賞賛をお受けになりました（使徒1：9）。

それから、イエスは聖霊をこの地上にお送りになりました。罪人が救われる道が備えられたというすばらしい知らせを告げるためです（使徒2：1-4）。



救いの道



- ◆キリストが救いのみわざを成し遂げられたのですから、すべての人が（自動的に）救われるのではありませんか？

いいえ、そうではありません。確かにそのみわざには、すべての人を救う力があります。しかし、その効力は、キリストを受け入れる人にだけ有効なのです。

かつて、アメリカで次のような事件が起こりました。1830年、ジョージ・ウィルソンという男が、強盗殺人の罪で裁判にかけられ、高等裁判所で死刑判決（絞首刑）を受けました。後に、彼には恩赦が与えられましたが、彼はそれを拒み、自分を死刑にするよう主張しました。この問題は最高裁判所に提訴され、次のような判決が下されました。「恩赦そのものは1枚の紙切れにすぎない。その効力は該当者がそれを受け入れるかどうかにかかっている。死刑を宣告された者が恩赦を拒むとは考えにくいだが、もし拒んだのであれば、恩赦は無効である。ジョージ・ウィルソンを死刑にすべきである」。その結果、ウィルソンは処刑されたのです。

- ◆なぜ神はすべての人をお救いにならないのですか？

神はすべての人が救われるのを望んでおられます（1テモテ 2：4）。

しかし、救いを受け入れるかどうかの選択は人間にゆだねられたのです。行きたくない人まで無理やり天国に連れて行ったとし

たら、それはもう天国ではなくなってしまうでしょう。

◆天国に行くには何が必要ですか？

罪を持ったままでは天国に入れません。ですから、罪が取り除かれ、天国にふさわしい性質が新たに与えられなければなりません（ヨハネ3：3、5）。

◆人はどのようにして救われるのですか？

恵みのゆえに、信仰によって救われるのです（エペソ2：8、9）。

◆「恵み」とはどういう意味ですか？

恵みとは神の限りない恩寵おんちゆうです。それは無代価の賜物であり、それに全く値しない者に与えられる神の救いです（ローマ5：8、エペソ2：7）。

◆「信仰」とは何ですか？

信仰とは「信じること、信頼すること」です。神の救いという賜物を無代価で受け取ることです。

◆何を信じれば救われるのですか？

主イエス・キリストを信じれば救われます（ヨハネ3：16、20：30、31）。

◆神の存在を信じれば、それで十分だと思うのですが？

いいえ。悪霊どもでさえ、そう信じて身震いしています。しかし、彼らが救われていると言えるでしょうか（ヤコブ2：19）。

◆「イエスを信じる」とはどういう意味ですか？

まず、あなたは、自分が罪人であり、救いを必要としていることを告白しなければなりません。そして、イエス以外に救いはないことを認め、生涯の「主」としてイエスを受け入れなければなりません（ローマ10：9）。

◆イエスに関する歴史的事実をすべて信じるだけでは不十分なのですか？

はい。イエスに関する聖書の記事をすべて信じたとしても、まだ不十分です。

◆ほかに何が必要なのですか？

真の信仰です。イエスにあなた自身を明け渡すことです。あなたの唯一の主であり、救い主であるお方として。

◆信仰がなければ救われないのですか？

そのとおりです。価値のないものに信頼すれば、その結果は必ず失望に終わります。救われるためにはキリストを信じなければなりません。

◆それはだれにでもできることですか？

救いはすべての人に提供されています。しかし、自分が「地獄へ行くべき罪人」であることを認めない限り、救われたいとも思わないでしょう（ルカ19：10）。

◆だれが人に罪の自覚をもたらすのですか？

聖霊なる神です（ヨハネ16：8－11）。

◆私は自分が罪人であることがわからないのですが、どうすればいいのでしょうか？

聖書を読み、自分のありのままの姿を聖書に照らして見つめなおしてください（ローマ10：17）。

◆それから、どうすればよいのですか？

あなたは自分が罪人であることがわかり、もし、今の状態のまま死んだら、地獄に行ってしまうことが理解できるでしょう。ですから、罪についての聖書の教えを、ぜひそのとおりに受け入れてください（ヨハネ8：21、24）。

◆そうすれば救われるのですか？

いいえ、それだけでは不十分です。自分の罪を悔い改め、主イエス・キリストを救い主として受け入れなければなりません（箴言28：13、使徒16：31）。

◆信じるだけで救われるというのは、あまりにも簡単すぎませんか？

簡単なことのように思えるかもしれませんが、神が備えられた救いの道はこれだけです。簡単に思えるのは、そのために払われた犠牲を忘れていたからです。それには神のひとり子の死が必要だったのです。信じることはとても簡単なことです。しかし、それによって得られる救いには計り知れない価値があります（イザヤ1：18）。

◆なぜ神は、信仰によって救おうとされたのですか？

おそらくその理由は、信じることならだれにでもできるからでしょう。信じるだけなら子どもでもできます。

◆しかし、何らかの「行い」も必要なではありませんか？

いいえ、何一つ必要ありません。キリストが十字架の上で救いのみわざを成し遂げてくださいました。ですから、私たちがしなければならない「行い」は何一つ残されていません。私たち罪人がすべきことは、ただ信じることだけです（テトス3：5）。

◆あなたは「しなければならない行い一つもない」と言っておきながら、「すべきことは、ただ信じることだけだ」と言われました。それは矛盾ではありませんか？

神はあなたの行いを何一つお認めにはなりません。行いによっ

て「天国への切符」を手にすることはできないのです（ローマ4：4、5）。

また、自分を造り、自分を生かしておられるお方を信頼すること以上に理にかなったことが、何かほかにあるでしょうか。ですから、信仰は私たちが誇れるような「行い」ではありません。そのうえ、信仰そのものも神の賜物なのです。このように、信仰は人間の誇りを取り去ります。したがって、信仰は、「良い行い」（あなたは、これこそ自分が天国に入る条件だと考えておられるかもしれませんが）のできない人間に残された「唯一できること」なのです（ローマ3：27）。

◆良い行いによっては救われないのですか？

聖書には次のように記されています。「行ないによるものではありません。だれも誇ることのないためです」（エペソ2：9）。

◆どうして良い行いによっては救われないのですか？

人間は「罪人」であり、その行いはすべて罪によって汚れています。人が行う最善の行為も、神のきよい目から見れば「不潔な着物」なのです（イザヤ64：6）。

◆では、今日から完全な生活を送れば救われるのですか？

無理です。神は過去のことも問題になさるからです。あなたは死んで神のさばきを受ける前に、これまで犯してきた罪をすべて精算しておく必要があります（伝道者3：15）。

◆礼儀正しい人や自分に自信のある人、教養のある人でも救われないということですか？

天国に行けるのは、自分が罪人であることを認め、イエス・キリストを救い主として受け入れる人だけです（マタイ21：31）。

◆確かに私は天国に行くほど良い人間ではないかもしれませんが、地獄に行くほど悪い人間とも思えないのですが？

死後、あなたの行くべき場所は2種類しかありません。すなわち、救われて天国に行くか、それとも救われないまま地獄に行くかです（Iコリント1：18）。

◆しかし、あまりにもひどい罪を犯してしまった結果、救われるのが不可能な人もいるのではありませんか？

いいえ。神は全人類を招いておられるのであり、だれでも救いを手にすることができます（イザヤ55：7、Iテモテ1：15、ヘブル7：25）。

**◆救われる前に、まず自分の生活を一新しなければなら
ないのではないのでしょうか？**

きよい生活を送ることができると考えている限り、救い主が必要だと感じないでしょう。罪を持ったままの姿でキリストの招きに応じるべきです。そうすれば罪は赦され、心に平和が与えられます（イザヤ1：18、マタイ9：13、ルカ19：10）。

◆イエスの模範に従えば、それで救われるのではありませんか？

イエスは一生涯、罪を犯されませんでした。そのような完全な模範に従うことのできる人など一人もいません。そのうえ、イエスが死なれたのは、そうする以外、人が救われる方法がなかったからです（Iペテロ2：24）。

◆イエスを信じるのが正しいことならば、なぜこれほど多くの人が信仰を拒むのですか？

それはサタンのしわざです。サタンが人々の心に覆いをかけ、「キリストの栄光にかかわる福音の光」が人々を照らさないようにしているのです（IIコリント4：4）。その場合、人の目にはまっすぐに見えても、その道の終わりは死です（箴言14：12）。

◆いわゆる「^{おうごんりつ}黄金律」を守れば、人は救われるのではありませんか？

いいえ、救われません。イエスが「何事でも、自分にしてもらいたいことは、ほかの人にもそのようにしなさい」と言われたのは、すでに救われた信者に対してでした。イエスはそれが天国への道だと言われたではありません。

◆では、「山上の垂訓」の中のイエスの教えに従って生きることは救いを得る手段にはならないのですか？

そのとおりです。もう一度繰り返しますが、これらの教えは、イエスを主と認めた結果、すでに救われている信者に対して語ら

れたものです。その教えに従うためには、きよい生活を送る必要があります。しかし、救われるまで、そのような力は与えられません。

◆それでは、十戒を守ることによっても救われないのですか？

十戒の要求を満たすことのできる人は一人もいません（ローマ 3：20）。

◆十戒とは正確にはどのようなものですか？

十戒とは次のようなものです。

- (1) あなたには、わたしのほかに、ほかの神々があってはならない。
- (2) あなたは、自分のために、偶像を造ってはならない。
- (3) あなたは、あなたの神、主の御名を、みだりに唱えてはならない。
- (4) 安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。
- (5) あなたの父と母を敬え。
- (6) 殺してはならない。
- (7) 姦淫かんいんしてはならない。
- (8) 盗んではならない。
- (9) あなたは隣人に対し、偽りの証言をしてはならない。
- (10) (隣人のものを) 欲しがってはならない。
(詳しくは出エジプト20：1-17を参照してください)。

◆十戒は神によってその民に与えられたのではなかったですか？

そうです。しかし、神がそれを「救いの手段」となさせたことは1度もありません（ガラテヤ2：16、3：11）。

◆では、なぜ神はそのような命令をお与えになったのですか？

それは、人間がどれほど罪深いかということを示すためです。曲がった線を見つけるときは、まっすぐな線を基準にします。同様に、人間が神の完全な基準からどれほど離れているかを示すために、神は律法をお与えになったのです（ローマ5：20、ガラテヤ3：19）。

◆律法を完全に守った人はこれまでにいましたか？

主イエス・キリストだけが律法を完全に守られたお方です。

◆イエスが律法を完全に守られたのですから、私たちは救われているではありませんか？

いいえ、違います。私たちが救われるためには、イエスの死と葬りとよみがえりがどうしても必要でした。律法は私たちを罪に定め、のろうだけです（ガラテヤ2：21）。

**◆もし、全生涯において律法を守ることができた人がい
れば、その人は救われますか？**

そのような人には「救い」は必要ありません。その人は完全な
のですから。

**◆十戒のうち9つまで守れた人がいるとします。その人
は救われますか？**

いいえ、救われません。律法は完全かつ継続的な従順を要求し
ます。戒めを1つでも破った瞬間、その人はすべての律法を破っ
たことになるのです（ヤコブ2：10）。

◆律法を破った罰は何ですか？

それは現在における死であり、永遠にわたる死です（ガラテヤ
3：10）。

◆十戒は善良な人々のために定められたものではありませんか？

そうではありません。「……律法は、正しい人のためにあるの
ではなく、律法を無視する不従順な者、不敬虔な罪人、汚らわし
い俗物、父や母を殺す者、人を殺す者、不品行な者、男色をする
者、人を誘拐する者、うそをつく者、偽証をする者などのため、
またそのほか健全な教えにそむく事のためにあるのです」（1テモ
テ1：9、10）。

◆十戒は私たちにどのような影響を与えますか？

十戒は、私たちがどのような罪人であるかということを悟らせ、主のあわれみにすぎるよう私たちを仕向けます（ローマ3：19）。

◆「必要なのは信仰だけで、行いは不要である」というのは、どうも理にかなったことのように思えないのですが？

聖書には「神は、私たちが行なった義のわざによってではなく、ご自分のあわれみのゆえに、……私たちを救ってくださいました」と記されています（テトス3：5）。

◆聖書のどこかに「行いのない信仰は死んだものである」と書かれていませんか？

はい。ヤコブの手紙2章17節や20節に書かれています。

◆ですから、救いには信仰だけでなく行いも必要なのではありませんか？

そうではありません。その箇所の教えはこうです。もしだれかが「私は信仰を持っている」と言っても、その人に良い行いが無いなら、そういう人は本当は救われていないのです。そのような「信仰」が人を救うことは決してありません。

◆どのような信仰が救いをもたらすのですか？

口先だけでなく、良い行いに満ちた生活が結果として現れるよ

うな真心からの信仰です。

◆良い行いは、救われた結果生じるものだという意味ですか？

そのとおりです。私たちは「良い行いによって」救われるのではなく、「良い行いへと」救われるのです（エペソ2：8-10）。

◆救われるために、どこかの集会（教会）に出席しなければなりませんか？

あなたの町のすべての教会に集ったとしても、それだけでは救われません。あなたは新しく生まれる必要があります（ヨハネ3：3）。

◆では、どこの集会（教会）にも集わなくていいのですか？

まず、人は救われた瞬間、自動的に「集会（教会）」のメンバーになっています（これは「からだなる教会」と呼ばれるもので、イエス・キリストを信じたすべての真の信者で構成されています）。それから、その人は、交わりを求めてどこかのクリスチャーンの集まりに出席すべきです。しかし、その集まりは、キリストが「かしら」であることを認めている集まりでなければなりません。そのうえ、聖書が神の靈感を受けた唯一の書物であり、信仰や道徳に関するすべての事柄についての十分な手引き書であると信じている集まりでなければなりません。

◆私の知り合いに幼児洗礼を受けた人がいますが、その人は救われていますか？

洗礼（バプテスマというのが正しい呼び名ですが）が「救い主」ではありません。救いを与えることができるのはイエス・キリストだけです（ヨハネ14：6）。

◆では、その「バプテスマ」を受けなくてもよいのですか？

新しく生まれた信者はバプテスマを受けるべきです。しかし、救われていない人がバプテスマを受けても意味がありません。また、（まだ善悪の区別も意思表示もはっきりできない）幼児がバプテスマを受けたという明確な記録は新約聖書にはありません。

◆教会の^{せいさんしき}聖餐式に参加することによっては救われませんか？

救われません。繰り返しますが、聖餐式（主の^{ばんさん}晩餐もしくはパン裂きの集会）は、主イエス・キリストにあってすでに新生した信者たちが執り行うべきものです。

◆では、集会（教会）の集まりに参加したり、献金をしたり、いろいろな儀式に参加したりすることは、私の救いに役立たないのですか？

なんの役にも立ちません。あなたは、罪人としてキリストに助けを求めてすがるなければなりません。そして、罪を悔い改め、イエスに信頼することです（使徒4：12）。

しばしば生じる疑問



◆主が私を受け入れてくださることが、どうしてわかるのですか？

主は「わたしのところに来る者を、わたしは決して捨てません」とおっしゃいました（ヨハネ6：37）。主は決してうそをつくようなお方ではありません。

◆「神を信じる」というのは、なんだか向こう見ずな行動のように思えて仕方ないのですが？

いいえ。それはこの世界で最も確かなことです。政治家は公約を無視し、人は約束を破るかもしれません。安全だと思えた銀行も経営破綻^{はたん}し、景気が行き詰まれば貸したお金も返ってきません。しかし、神は約束を破ることができないお方なのです。神は、キリストを信じ、受け入れたすべての人を救うと約束されたのです。「御子を信じる者はさばかれない」のです（ヨハネ3：18）。

◆私は「神の選び」からすでにもれているのではないかと不安なのですが？

福音は選ばれた者のためのものではなく、全世界のためのものです。キリスト・イエスを主として受け入れるならば、神はだれにでも真の救いをお与えになります。もし、あなたが神の言われるとおりにするなら、あなたは救われるのです。「御子を信じる

者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる」(ヨハネ3：36)。

◆私は救われたいのですが、クリスチャンとしてやっていけるかどうか心配です。

クリスチャンとして立派にやっていける力を初めから持っている人など一人もいません。しかし、神は、救われると同時に、あなたがそれまで持っていなかった力をお与えになります。信者はみな聖霊を内に宿しています。そして、聖霊は、信者がクリスチャンとして生活していくための力を与えてくださるのです(ローマ8：14)。

◆もし、「^{ゆる}赦されない罪」を犯してしまったらどうなるのですか？

主イエスによれば、赦されない罪というのは、イエスが行われた奇蹟きせきを悪霊のしわざだと言うことだけです。あなたはそのような発言をなさったことがあるでしょうか？ もし、そうでないならば、あなたはまだ「赦されない罪」を犯してはいません(マタイ12：31、32)。しかし、もしキリストを拒んだまま死んでしまうなら、赦されない罪と同じほど重い罪を犯してしまうことになるのです(マルコ8：36、37)。

◆信仰を持つと、人生の楽しみがなくなってしまうような気がして仕方がないのですが？

キリストは豊かに与えるために来られたのです。奪ったり、殺

したり、滅ぼしたりするために来られたのではありません（ヨハネ10：10）。

ある未信者がクリスチャンの友人に言いました。「君はクリスチャンになったおかげで、ずいぶん損をしてるよね」。そのクリスチャンは答えました。「でも、クリスチャンでない君は、それとは比べものにならないほどの損をしているよ」。

◆自分の信仰が正しい信仰かどうか、どうすればわかりますか？

あなたは、イエス・キリスト以外には天国に通じる道がないことを信じておられますか。あなたはご自分の罪を心から悔い改めましたか。あなたは主イエスにご自分を完全にゆだねておられますか。もしこれらの質問に対する答えがすべて「はい」であれば、あなたは正しい信仰をお持ちだと言えます。

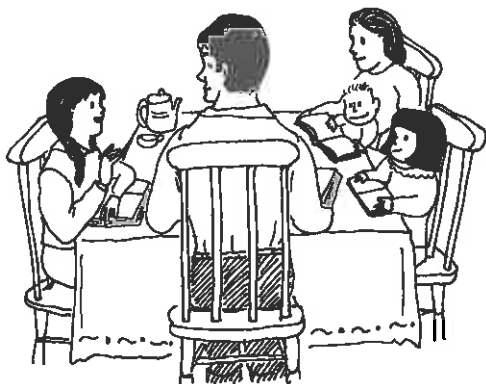
◆死ぬ間際に信じたら、それで十分なではありませんか？

次の4つの聖句をぜひ心にとめてください。

- (1) 「あすのことを誇るな。一日のうちに何が起こるか、あなたは知らないからだ」（箴言27：1）。
- (2) 「責められても、なお、うなじのこわい者は、たちまち滅ぼされて、いやされることはない」（箴言29：1）。
- (3) 「あなたの若い日に、あなたの創造者を覚えよ。わざわいの日が来ないうちに、また『何の喜びもない』と言う年月が近づく前に」（伝道者12：1）。
- (4) 「確かに、今は恵みの時、今は救いの日です」（Ⅱコリント6：2）。

◆イエスをとおして以外に神に近づく方法はないのですか？

絶対にありません。「神は唯一です。また、神と人との間の仲介者も唯一であって、それは人としてのキリスト・イエスです。キリストは、すべての人の贖いの代価として、ご自身をお与えになりました。これが時至ってなされたあかしなのです」(1テモテ2：5、6)。



神との関係と交わり



◆クリスチャンは罪を犯しますか？

はい。クリスチャンはことばにおいて、行いにおいて、あるいは心の中で毎日罪を犯します。クリスチャンは「怠慢」という罪もときどき犯してしまいます。

◆クリスチャンは罪を犯すべきですか？

いいえ。神のみこころは、クリスチャンが罪を犯さないことです（Iヨハネ2：1）。

◆罪を犯したとき、クリスチャンは「救い」を失ってしまふのですか？

いいえ。救いは神から無代償でいただく賜物であり、一度与えられると決して取り去られることはありません（ローマ6：23）。

◆では、犯した罪の報いを受けなくてもよいのですか？

イエス・キリストが十字架の上で、すべての罪の報いを代わりに受けてくださいました。神がその報いをもう一度要求なさることはありません。

◆クリスチャンは、たとえ罪を犯しても、なお「神の子ども」であり続けるという意味ですか？

そうです。信者は永遠に神の家族の一員です。だれが父親であるか、母親であるかは一生変わりません。たとえ両親に恥をかかせたとしても、子どもであることに変わりはありません。神の子どもになった場合も同様です。新しく生まれた結果、築かれた関係は、何ものによっても変更されません（ヨハネ1：12）。

◆では、クリスチャンが罪を犯したとき、何が起こるのですか？

1つは、主との交わりが一時中断してしまうということです（Iヨハネ1：6）。

◆「交わり」とは何ですか？

交わりとは、メンバー全員が同じ関心を持ち、共同で物事を分かち合うことによって生じる、（家族のような）幸いな心のふれあいです。一例を挙げてみましょう。ある裁判官がだれかに「懲役1年」の判決を下したとしましょう。その裁判官が家に帰ってみると、自分の幼い子どもがいたずらをしていたことがわかりました。だからといって、彼はその子に懲役1年の判決を下すでしょうか。そんなことはしません。もはや裁判官としてではなく、父親として行動するからです。その子がたとえいたずらをしたとしても、彼の子どもであることに変わりはありません。しかし、子どもが犯した罪のゆえに、親子としての幸いなふれあいは一時中断します。その子が罪を告白し、赦してもらうまでその状態が続きます。ここで大切なのは、中断されたのは「（親子としての）

関係」ではなく「(親子としての) 交わり」であるということです。

あなたがまだ救われておられないのならば、神はあなたにとっては裁判官のようなお方です。しかし、あなたが救われておられるならば、神はあなたにとって、この父親のような存在なのです。

◆いったん救われたら、絶対に地獄に行くことはないという意味ですか？

それが聖書の教えです。「……彼らは決して滅びることがなく」(ヨハネ10：28)。「信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきに会うことがなく、死からいのちに移っているのです」(ヨハネ5：24。ローマ8：38、39、IIテモテ1：12、Iペテロ1：5、ユダ24、25も参照してください)。

◆救われたあとで、考えが変わる人もいないのでしょうか？

自分の人生を主イエス・キリストにゆだねると、今度は救い主が一手に責任を負ってくださるのです(ヨハネ6：39)。主は、ご自分の真実にかけて、その人を天の故郷に連れて行かれます。また、真の信者には聖霊が内住しておられるので、真の信者が「救われること」に関して考えを変えることはあり得ません。

◆クリスチャンが好き勝手に罪を犯しても、それでも救われているという意味ですか？

本当のクリスチャンは罪を犯したいとは思いません。罪を憎む

新しい性質が与えられているからです (IIコリント5：17)。

◆しかし、クリスチャンが（悪いと知りながら）故意に罪を犯し続けたとしたらどうでしょうか？

もし、そのような生活を送っている人がいたとしたら、それは、「その人は絶対にクリスチャンではない」という確かな証拠です (Iヨハネ3：9、10)。

◆神が罪を犯したクリスチャンを見過ごしにされることはあり得ますか？

あり得ません。「信者の法的な処罰はすべて、イエスがカルバリで受けてくださった」ということは事実ですが、その一方で、「神は、過ちを犯したご自分の子どもを必ず懲らしめる」ということも事実です (ガラテヤ6：7、8)。

◆神はご自分の子どもたちをどのように懲らしめるのですか？

ときには、病気や思いがけない災難をとおして、また極端な場合は、死をもって懲らしめられます (Iコリント11：30)。

◆信者の罪は、それ以外にも重大な結果をもたらしますか？

はい。罪を犯した信者は喜びを失ってしまいます。その祈りは妨げられます。他人の過ちに対しても、はっきりものが言えなくなります。恥ずかしい思いをし、良心の^{かたじけなく}呵責に駆られます。そ

の人のあかしは台無しになってしまいます。

◆信者の罪は、永遠にもなんらかの結果をもたらしますか？

はい。その人は「キリストのさばきの座」で損失をこうむるでしょう（Iコリント3：15、IIコリント5：10）。

◆もし、「まだ告白していない罪」を持ったまま召されたらどうなるのですか？

これまでも述べたように、信者の罪に対する刑罰は、主イエスがすべて代わりに受けてくださいました。イエスが死なれたとき、（私たちクリスチャンはまだこの地上に生まれていなかったのですから）クリスチャンが犯す罪はすべて未来のものでした。イエスがすべての罪の報いを受けてくださったので、私たちは、「信者が過去、現在、未来において犯す、すべての罪のためにイエスは死なれた」と言うことができるのです。

しかし、もし「告白していない罪」を持ったまま召されたら、その人はキリストのさばきの座で報酬を失うことになるでしょう。

◆クリスチャンが不信心に逆戻りしてしまうことはあるのですか？

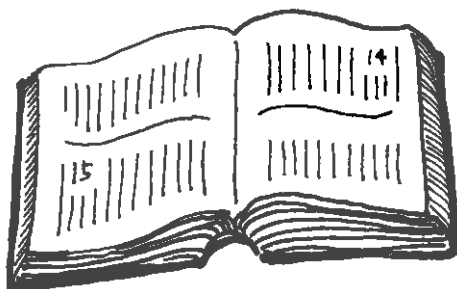
はい、あります。どんな神の子にも、主から離れてしまう可能性があります。

◆信仰の道からはずれないようにするためには、どうすればいいですか？

神のことば（聖書）をよく読み、よく学び、よく祈り、神の民との交わりを絶やさないようにしましょう。

◆もし、信仰の道からはずれてしまったときは、どうすれば回復できるのですか？

犯した罪を告白し、その罪を捨てることです。もし必要ならば、可能な限り、罪の償いもすべきです。



救いの確信を持つために



- ◆もし、私が、自分の「主」、そして「救い主」としてキリストを信じ、受け入れたら、私の内側にどのような変化が起こりますか？

もし、あなたが、ある種の神秘的な感じや感情的な経験のことを言っておられるのでしたら、たぶん何も起こらないと言った方が正しいでしょう。

- ◆では、自分が救われたということをどのようにして知るのですか？

それはとても簡単なことです。神は「主イエスを信じる者を救う」とおっしゃっています。もし、あなたがイエスを信じておられるならば、あなたは自分が救われていることが分かります。なぜなら、神がそうおっしゃったからです（Iヨハネ5：10-12）。

- ◆からだでそれを感じることはないという意味ですか？

それとおおりです。「救い」が実際に起こるのは天においてです。そこで救いの事実が記録されるのです。神があなたの信仰をご覧になるとき、神はあなたを義とされます。

◆しかし、人は救われたとき、「何かが違う」と感じるべきではありませんか？

確かにそうかもしれません。しかし、「感情」は救われたという証拠にはなりません。人は、自分が救われたということを知るまでは、本当の喜びを感じることはないでしょう。順序は次のとおりです。

「救い」が、キリストに対する信仰によってもたらされます。

「確信」が、神の約束をとおしてもたらされます。

「喜び」が、この確信をもとにしてもらわれます。

◆それでは、「自分が救われていることを知るのは、聖書に記されている神の約束をとおして」ということですか？

そうすることが、救いの確信を持つ第一段階です。「私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです」(Iヨハネ5：13)。

◆感情はあてにならないと言われるのですか？

感情はとても変わりやすく、やっかいなものです。ある日は救われていると感じたのに、次の日にはもう救われていないと感じたりします。

しかし、神のことばは決して変わることがありません。ですから、神のことばに基づいて救いの確信を持った方がはるかに賢明です。

◆自分が救われていることは、聖書をとおしてしか分からないのですか？

いいえ。ほかにもいくつかあります。

- (1) 他のクリスチャンたちを愛することによって (Iヨハネ 3：14)。
- (2) きよさに対する愛が新たに生じることによって (ローマ 7：22)。
- (3) 罪に対する憎悪が新たに生じることによって (ローマ7：24)。
- (4) 信仰に堅く立つことによって (Iヨハネ2：19)。
- (5) 内住する聖霊のあかしによって (ローマ8：14、16)。

◆救われているにもかかわらず、それが自分で分からないこともあり得ますか？

本当に新生しているにもかかわらず、それが自分で分からないこともあり得ます。適切な教えを十分に受けていなかったり、サタンによって心に疑いが生じたりした場合などです。

◆救われていないのに、救われていると思っている人もいるのですか？

確かにいます。自分の性格や行いによって救われていると考えている人がたくさんいるからです。しかし、そのような人は救われていないのです (マタイ7：22、23)。

◆回心した日時を知ることは必要なことですか？

いいえ、必要なことではありません。自分が救われた日時や場所を正確に言える人もたくさんいます。一方、救い主を受け入れた日時を覚えていない人もいます。大切なのは次のように言えるかどうかです。「私は今、自分が救われていることを知っています。なぜなら、私は主イエス・キリストだけを信じ、主イエス・キリストだけを信頼しているからです」。

◆クリスチャンは時折、自分の救いについて疑いを抱くのですか？

残念なことです。クリスチャンの中には、回心してからも、悪魔に惑わされて疑いを抱いてしまう人もいます。

◆そのような事態に陥ってしまったときは、どうすればよいのですか？

最もよい方法は、自分が抱いた疑問をみことばによって解決することです。サタンが、信者が救われていないことをほのめかしたとき、ヨハネの福音書5章24節のような約束を引用すべきです。そのみことばは、「主イエスを受け入れる者はみな救われる」と保証しています。ちょうど、主が荒野でサタンの誘惑を退けるためにみことばを用いられたように、私たちも悪魔の惑わしをはねのけるために聖書を用いるべきです（マタイ4：4、7、10）。

◆自分がキリストを本当に受け入れているかどうか分からないときは、どうすべきでしょうか？

心から次のように言うことによって、それを今すぐ確かなものとすべきです。「主よ。もし、私がまだあなたを信じていないのならば、私は、今ここに、私のただ一人の主であり救い主であるお方としてあなたを受け入れます」と。



きよさについて



◆クリスチャンになるためには、きよい生活を送らなければなりませんか？

いいえ。罪人は救われるまで、きよい生活を送ることができません。

◆神は、クリスチャンがきよい生活を送ることを望んでおられますか？

はい。神はそれをととても願っておられます (Iテサロニケ4：3、テトス2：11-13)。

◆クリスチャンはみな、罪のない^{かんぺき}完璧な生活を送るのですか？

いいえ。罪を犯さないクリスチャンなど一人もいません (Iヨハネ1：8、10)。今までに完全な生活を送ることができた「人」は主イエス・キリストだけです。

◆救われたあとも、クリスチャンが罪を犯してしまうのはなぜですか？

信者にはまだ、古い性質、すなわち生来の邪悪な性質が残っているからです。これは回心によっては取り去られません (ローマ

7：17)。

◆では、信者は救われていない人と、どこが違うのですか？

信者は、回心したときに与えられた新しい性質を持っています。聖書はこれを「神のご性質」と呼んでいます (IIペテロ1：4)。

◆その2つの性質の違いは何ですか？

古い性質は矯正不可能なもので、絶えずクリスチャンに罪を犯させようとします (ローマ7：21)。

新しい性質は信者を聖潔に導きます。この性質によってのみ、善を行うことができるのです (ローマ7：22)。

◆なぜ神は、回心のあとでも悪い性質が残ることを許されたのですか？

古い性質は、「私たちがいかに無価値なものであり、弱いものであるか」を私たちに教えます。また、それによって私たちは、誘惑に立ち向かう力を主に求めるようになります (ローマ7：24)。

◆クリスチャンはみな誘惑されますか？

はい。クリスチャンはだれでも誘惑されます (Iコリント10：13)。

◆クリスチャンは誘惑に屈しなければなりませんか？

いいえ。クリスチャンは誘惑に屈したときだけ罪を犯すのです。信者は内に聖霊を宿しています。聖霊の力によって信者はあらゆる誘惑に立ち向かうことができます（ガラテヤ5：17）。

◆古い性質に対して神はどのような態度をおとりになるのですか？

神は、古い性質が死に値するものであることをご存じです。だからこそ、神はそれをカルバリの十字架の上で処罰なさったのです。神はそれを改善しようとはなさいませんでした。それは全く希望のないものだからです。キリストが死なれたときに、古い性質も死んだものと神はみなされました（ローマ6：6）。

◆信者は古い性質に対してどのような態度をとるべきですか？

信者は、それを絶えず死の状態に保っておかなければなりません。古い性質が罪を犯すよう働きかけたとしても、その誘惑に屈してはなりません（ローマ6：11、12）。

◆クリスチャンは新しい性質に対してどのような態度をとるべきですか？

信者は、それを養い、育て、励ましていかなければなりません。それは、聖書を学んだり、礼拝や祈りに時間を費やしたり、さまざまな奉仕に励んだりすることによって可能となります（ガラテヤ5：22、23）。

◆きよい生活を送る秘訣は、一言で言うと何ですか？

それは主イエスに対する礼拝の思いで心が満たされることです。私たちは、キリストを礼拝すればするほど、キリストに似た者と変えられていきます。きよさは一朝一夕で得られるものではありません。それは一生続く過程なのです（Ⅱコリント3：18）。

◆きよい生活のために役立つ実践的なアドバイスはありませんか？

- (1) 「何を考えるか」に注意しましょう。あなたは自分が考えることをコントロールできます（ピリピ4：8）。
- (2) 肉の欲が働く機会を与えないようにしましょう（ローマ13：14）。
- (3) キリストがあなたの内に生きておられることを忘れないでください（コロサイ1：27）。
- (4) 誘惑されたらすぐに、助けを求めて主に叫びましょう（マタイ14：30）。
- (5) 主のみわざに絶えず励みましょう（伝道者9：10）。
- (6) 肉体の鍛練もいくらかは有益です（Iテモテ4：8）。

◆クリスチャンは、きよい生活を送るために十戒を守る必要があるのではないのでしょうか？

聖書は「信者は（生活の規範としての）十戒のもとにはいない」と教えています（ローマ6：14）。

- (1) 律法の目的は、私たちが罪人であることを私たちに悟らせることであり、私たちがきよめることではありません。
- (2) 律法は、それを完全に守れない人に死刑の宣告を下します。

こののろいなしに律法のもとにいることはだれにもできません。

- (3) キリストは、私たちが破った律法の刑罰という報いを受けてくださいました。ですから、律法は神の子らに対して何も言うことができません（ローマ10：4、ガラテヤ3：13）。

◆では、クリスチャンも「殺人」や「^{かんいん}姦淫」といった罪を犯す可能性があるのですか？

決してありません。クリスチャンはそのようなことをしたいとは思いません。「新しいのち」が与えられているからです。律法のもとにある人はその刑罰を恐れて生きています。恵みのもとにある人はキリストの愛にとらわれています。愛は恐れよりもさらに強い動機なのです。人は愛のためなら、恐れという動機からは決してしないことをするのです。

◆十戒が信者の生活の規範でなければ、いったい何が規範なのですか？

イエスの生涯と教えが、クリスチャンにとっての模範であり指針なのです（1ヨハネ2：6）。

◆イエスの教えと律法はどこがどう違うのですか？

その答えはマタイの福音書の5章に記されています。律法には「姦淫してはならない」と記されていますが、イエスは「だれでも情欲をいだいて女を見る者は、すでに心の中で姦淫を犯したのです」と言われました（マタイ5：27、28）。

律法には「目には目で、歯には歯で」と記されていますが、イ

イエスは「悪い者に手向かってはいけません。あなたの右の頬を打つような者には、左の頬も向けなさい」と言われました（マタイ5：38-42）。

律法には「自分の隣人を愛し、自分の敵を憎め」と記されていますが、イエスは「自分の敵を愛し、迫害する者のために祈りなさい」と言われました（マタイ5：43、44）。

◆イエスが教えられたとおりに生きることは可能ですか？

人間的には不可能です。しかし、主はすべての信者に聖霊をお与えになりました。ですから、信者にはそのように歩む力があるのです（1コリント6：19、ガラテヤ5：16、17）。



立場と状態



◆もし、クリスチャンも罪を犯すのならば、神はどのようにして彼らを天国に連れて行くのですか？

キリストを信じる者には、神の御前における完全な「立場」が与えられます。たとえ、完全な「状態」から遠く離れていたとしても（コロサイ2：10）。

◆信者の「立場」とはどのようなものですか？

信者がキリストの内にあるがゆえに、神に喜ばれる立場にあるという意味です（ローマ5：1、2）。

クリスチャン自身には神の前に立てるだけの権利や価値は何一つありません。信者が天に行けるのは、ただ主イエスご自身とそのみわざによるのです。それによって神は私たちを受け入れてくださるのです。私たちがだれであるか、何者であるかによってではありません。キリストに属しているからなのです（エペソ1：6）。

◆神は罪深い人間をどのようにして義（正しい）とみなすことができるのですか？

キリストが十字架の上で私たちの罪の刑罰を身代わりに受けてくださったので、それが可能となったのです（エペソ2：13）。

◆それは聖書の教えですか？

はい。コリント人への手紙第二の5章21節に、はっきり述べられています。

「神は、罪を知らない方（キリスト）を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです」。

◆神は信者全員を（神のひとり子のもとに来たがゆえに）受け入れてくださるという意味ですか？

そのとおりです。キリストこそ天へ通じる唯一の道です。

◆信者はその完全な立場にどのくらい長い間いることができるのですか？

神の御前における信者の立場は永遠のものです。キリストの内にあり、神の愛するひとり子の内に受け入れられているからです（エペソ1：13、14）。

◆信者の「状態」とはどのようなものですか？

それは、この地上における日々の霊的状态のことです。「キリストにおいてその人は何者であるか」が信者の立場であるのに対し、「その人自身はどのような者であるか」が信者の状態と言えるでしょう。

◆信者の状態は罪のないものですか？

いいえ。信者の状態は、しばしば、本来あるべき姿から大きくかけ離れたものです（コロサイ3：8、9）。

◆そのような信者に対して神は何を望んでおられるのですか？

神のみこころは、信者の状態が、その立場のレベルまで少しずつ成長することです。ですから、クリスチャンは生涯をとおして常に成長すべきです（コロサイ3：1）。

◆信者の状態は、いつかその立場と同じになるのですか？

はい。信者がキリストによって天に引き上げられるとき、信者の状態はその立場と同様、完全なものとなります（Iヨハネ3：2）。

◆クリスチャンが、状態においても立場と同じくらいまで成長したいと願うべきなのはなぜですか？

キリストに対する愛がその望みを抱かせるに違いないからです（ヨハネ14：15）。

救われたあとで



◆キリストを信じ、受け入れたあとで、まず最初にしなければならないことは何ですか？

まずは、自分のたましいを救ってくださった主に感謝することでしょう（ルカ17：14-19）。

◆キリストを信じたことを、ほかの人にも告げる必要がありますか？

人前で告白しなくても救いを得ることはできますが、クリスチャンとして成長するためには、人前での告白は確かに必要なことです。救い主を恥じるような人が、神の御前に成長したいと望んでも無理でしょう（マタイ10：32、33、ローマ10：9、10、Iペテロ3：15）。

◆どのようにして「あかし」を始めればよいのですか？

主があなたにどんなにすばらしいことをしてくださったかを、ほかの人に告げるだけでよいのです（マルコ5：19）。

◆信じてからどのくらい経ったらバプテスマを受けられますか？

大切なのは「どのくらい経ったか」ではなく、「キリストに従

順に従う気持ちがあるかどうか」です。バプテスマは、自分自身がキリストと（その死、葬り、復活において）つき合わされていることを公に宣言するすばらしい機会です。それは、「私は死に値するが、キリストが私のために死なれた」と言っているのと同じです。それゆえ、キリストが死なれたとき、私たちも死んだのです。キリストが私たちの代わりに死なれたからです。私たちは、バプテスマを受けることによって、「キリストとともに葬られ、いのちにあって新しい歩みをするためにイエスとともによみがえった」ことを証言するのです（ローマ6：3-10）。

◆バプテスマは「救い」に役立ちますか？

いいえ。バプテスマは主イエスの教えに従順に従うことを表す1つの行為です。バプテスマを受けることなく天に召された信者たちも大勢います。彼らは永遠にバプテスマを受けることはないでしょう。

◆回心した人がどこの集会（教会）に集うべきか、どうすれば分かるのですか？

まず最初に、救われた人はすでに真の教会（キリストのからだなる教会）のメンバーであることを知っておいてください（Iコリント12：13）。

そのうえで、いずれかの地域集会（教派の「教会」のことではありません）に所属すべきです。その地域集会では、キリストが「かしら」として認められていなければなりません。また、聖書が唯一のよりどころとして受け入れられ、2つの儀式（バプテスマと主の晩餐（ばんさん）〈パン裂きの集会〉）が執り行われており、聖書が正しく学ばれ、福音がまっすぐに語られていなければなりません

ん。

そして、クリスチャンたちと交わるなかで、どのような形でその信者の群れに貢献できるかを考えましょう。たとえば、愛の奉仕、熱心な祈り、犠牲的な施しなどです。

◆クリスチャンが毎日すべきことは何だと思われますか？

毎日、聖書を読み、聖書研究と祈りに一定の時間を費やすことです。また、犯した罪を告白し、それを捨てることです（詩篇 119：9、11）。



弟子としての道



◆主は救われた人に何を望んでおられますか？

主にすべてをゆだねることです。主の導きに従い、主が命じられることを行い、主が望まれるとおりの者になることです。すべてを捨て、十字架を負い、キリストに従うことです（ローマ 12：1、2）。

◆神がそれを望まれるのは当然のことでしょうか？

そうです。そのようにして主の要求に応じるべきです。

◆自分自身のことを考えてはいけないのですか？

神を喜ばせることは信者の責任です。もし、神の国とその義とをまず第一に求めるならば、生計の手段は必ず備えられ、必要なものはすべて与えられます（マタイ 6：33）。

◆それは私が海外の宣教地へ行かなければならないという意味ですか？

そうかもしれませんし、そうでないかもしれません。しかし、それがはっきりとしたみこころならば、いとわずに行くべきです（ルカ 9：23－26）。

◆クリスチャンのなかにも何不自由なく、ぜいたくな暮らしをしている人がいますが、そういう人たちはキリストのためにすべてをささげているようには思えないのですが？

自分をほかのクリスチャンと比較してはいけません。主イエス・キリストを模範とし、その例に倣うべきです（ルカ 14：25 - 35）。

◆ルカの福音書の14章26節で、イエスは、「わたしに従うために、あなたがたは家族を憎むべきだ」と言われていますが、それはどういう意味ですか？

主イエスは、主に対する私たちの愛があまりにも大きすぎて、それに比べれば家族への愛がまるで「憎しみ」に等しいくらい小さいものになることを願っておられるのです。

◆私はイエス・キリストを救い主として受け入れたいのですが、自分の「主」としては認めたくありません。

聖書はそのような態度を奨励してはいません。もし、主イエスにあらゆる価値を見いだせないならば、「彼には何の価値もない」と言っているのと同じです。

◆キリストに自分自身を明け渡さない限り、救われないという意味ですか？

まさにそのとおりです。ですから、あなたのすべてを今すぐ主にゆだねてください。

人の問いと神の答え

1998年8月20日初版発行

著 者 ウィリアム・マクドナルド

訳 者 那須清志

発 行 者 J. B. カリー

発 行 所 伝道出版社

〒183-0056 東京都府中市寿町2-8-9

TEL 042-366-7760

FAX 042-366-7790

本文さし絵 山本ルツ

印 刷 所 (有)岩佐印刷所

Printed in Japan

伝道出版社の既刊書

礼	拜	A. P. ギブス 著	¥1,700
～クリスチャンの最高の任務～			
種	類に	B. C. ネルソン 著	¥1,200
～進化論に対する決定的な反論～			
幕	屋	A. J. ポロック 著	¥2,000
～神の会見の天幕～			
パウロ	と同船して	H. A. アイアンサイド 著	¥700
～聖書の根本の真理～			
聖書を	正しく学びましょう	C. I. スコフィールド 著	¥700
～聖書の真理の基本的分類法～			
主	の	H. C. ヒューレット 著	¥300
「主の御子たる地位」他全12章			
助	け	M. グッドマン 著	¥400
～聖霊について～			
聖	書の	D. L. ムーディー 著	¥1,000
～ダニエル他5人の人物考～			
全	く	W. ギルモア 著	¥1,000
従う			
らい	病人の	G. C. ウイルス 著	¥1,500
きよめ			

図書目録ご希望の方は、当社宛ご請求下さい。

伝道出版社の既刊書

新約聖書の奥義	T. E. ウィルソン著	¥1,000
御使い	J. B. カリー著	¥600
黄金の家 ～幕屋の入門書～	J. ロオー著	¥400
異言について	D. B. ロング著	¥200
集会の真理と行動	PRECIOUS SEED 選集	¥2,000
神の集会への受け入れ	W. バンティング著	¥300
姉妹のかぶり物と神の栄光	ピーター・ウィー著	¥300
ハルマゲドンは近い？	W. マクドナルド著	¥500
結婚と家庭	A. J. ヒギンズ著	¥1,300
日々の光 ～毎日の聖句集～	口語訳聖書より	¥2,300

注解・講解

- | | | |
|-----------------------------|-----------------|--------------------|
| 輪郭的聖書
聖書66巻の概要 | ロバート・リー 著 | ¥1,200 |
| モーセ五書講義
「創世記」～「申命記」まで全5冊 | C. H. マッキントシ 著 | 各¥2,000
～¥2,300 |
| サムエル記 | A. マクシェーン 著 | ¥2,500 |
| エズラ記・ネヘミヤ記・
エステル記 | H. A. アイアンサイド 著 | ¥2,400 |
| ダニエル書 | H. S. ベイズリー 著 | ¥1,400 |
| ローマ人への手紙 | J. B. カリー 著 | ¥2,500 |
| コリント人への手紙第一 | J. B. カリー 著 | ¥1,800 |
| エペソ人への手紙注解 | F. F. ブルース 著 | ¥1,200 |
| 天にあるものの写しと影
～ヘブル人への手紙講解～ | J. ヘディング 著 | ¥2,500 |
-